

6

中世社会の成立

学習1 荘園の形成と武士の登場

- 10世紀になると、貴族や寺社(荘園領主)に土地を寄進して**荘園**とし、自らは**荘官**となって土地の管理を行う者が現れました。そして、政府から税を免除(不輸)され、荘園への役人の立ち入りを認めない不入の特権を持つ荘園が増えていきました。
- 9世紀末ごろから、武芸を身につけ**武士**(兵)とよばれる者が現れ、有力な武士を中心に**武士団**がつけられました。関東で平将門が、西日本で藤原純友が乱を起こしました(**天慶の乱**)。
- 天皇の血を引く**源氏**と**平氏**は有力な武士団でした。

note 東北地方での武士の進出

- ・**前九年合戦**…源頼義・義家親子は安倍氏を滅ぼす。
- ・**後三年合戦**…義家は清原氏の反乱を鎮める。
- ・**奥州藤原氏**…平泉(岩手県)に中尊寺金色堂を建てる。

学習2 院政と武士の成長

- 藤原氏と血縁関係のうすい後三条天皇が即位すると、摂関政治の力が弱まりました。白河天皇は11世紀末に退位して**上皇**となっても、政治の実権を握り続けました。この政治を、上皇やその住む御所を「院」とよんだことから**院政**といえます。
- 上皇は出家して法皇となり、**熊野詣**などの寺社参詣をくり返しました。保護を受けた大寺院は、しばしば**強訴**を起こしました。
- 12世紀半ばすぎの京都に、2つの戦乱があいついで起こりました。

note 2つの戦乱

- ・**保元の乱**…天皇家内の対立や近臣の対立により起こる。**後白河天皇**が**平清盛**、**源義朝**を味方にして崇徳上皇に勝利した。
- ・**平治の乱**…清盛と義朝が戦い、清盛が勝利する。

- 平清盛は武士として初めて、太政大臣になりました。

note 平清盛の政治

- ・**日宋貿易**…大輪田泊(現在の神戸港)の港や航路を整備した。
- ・朝廷との関係…娘を天皇のきさきにして権力を強めた。

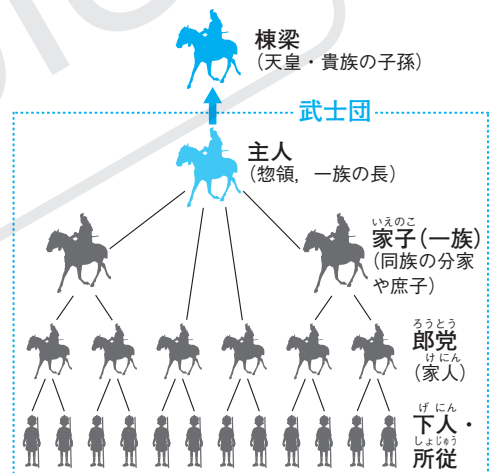
- 清盛が後白河上皇と対立すると、上皇の皇子が平氏の討伐をよびかけ、**源頼朝**らが挙兵し、源平の争乱が始まりました。1185年に、頼朝の弟の**源義経**が、壇ノ浦(山口県)で平氏をほろぼしました。

学習3 鎌倉幕府の成立と執権政治

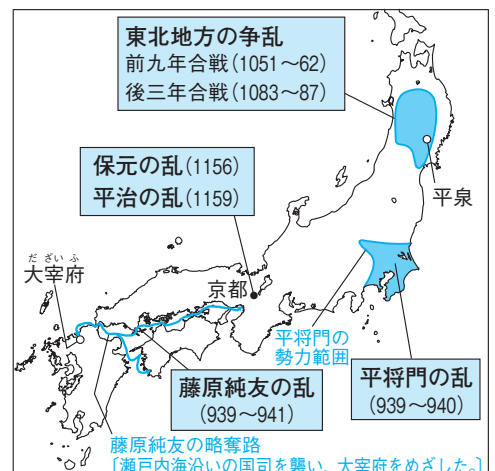
- 平氏の滅亡後、頼朝の勢力を恐れた後白河上皇が義経に官位を与

時代	年	できごと	中国	
平安時代	939	関東で平将門の乱 瀬戸内海で藤原純友の乱	五代	
	1051	前九年合戦		
	1083	後三年合戦		
	1086	白河法皇が院政始める		
	1156	保元の乱が起こる		
鎌倉時代	1159	平治の乱が起こる	宋	
	1180	伊豆で源頼朝が挙兵する		
	1185	壇ノ浦の戦いで平氏がほろびる 源頼朝が守護・地頭を設置		
	1192	源頼朝が征夷大将軍になる		
	1221	承久の乱がおこる		
	1232	北条泰時が御成敗式目を制定		元

▼武士団のしくみ



▼各地の争乱



えたことから、頼朝と義経の対立が深まりました。義経は挙兵し、上皇も頼朝討伐を命じました。

□頼朝は、対立した義経を捕らえることを名目に、頼朝の部下の御家人に守護・地頭を置くことを後白河法皇に認めさせました。

note 守護と地頭

- ・守護…国ごとに置かれ、国の軍事・警備にあたる。
- ・地頭…荘園・公領ごとに置かれ、年貢の取り立てをした。

□頼朝は征夷大将軍に任じられ、鎌倉幕府を開きました。鎌倉に幕府が置かれた約150年を鎌倉時代といいます。

□将軍と御家人は御恩と奉公の関係によって結ばれました。

note 御恩と奉公

- ・御恩…将軍が領地を保護したりあたえたりすること。
- ・奉公…京都や鎌倉の警備や、命がけの戦いをすること。

□頼朝の死後、幕府の実権は頼朝の妻の北条政子と、その父の北条時政がにぎりました。北条氏は、将軍を補佐する執権という地位について政治を行いました。その後、北条泰時は有力な御家人から評定衆を選び、1232年、御成敗式目を制定しました。(執権政治)。

□1221年、後鳥羽上皇は朝廷の権力を回復するために挙兵しました。しかし、上皇は幕府軍に敗れ、隠岐(島根県)に流されました。これを承久の乱といいます。この乱ののち、幕府は朝廷を監視するために京都に六波羅探題を置きました。

学習4 文化・宗教・生活

□武士の一族は、本家の家長(惣領)を中心に団結しました。土地などは分割相続が原則であり、兄弟姉妹にも譲られました。

□荘園領主は荘園の管理を地頭に任せたり(地頭請)、荘園を地頭と二分したりすることもありました(下地中分)。

□牛や馬が農作業に利用されるようになり、稲作と畑作の二毛作が行われるようになりました。また、寺社の門前などでは、定期市が開かれ、港では商品などを保管する問(問丸)が活躍しました。

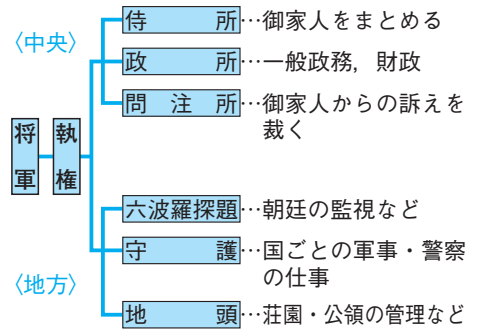
□武士が活躍したことは文化にも影響を及ぼしました。

note 鎌倉時代の建築・文学

- ・金剛力士像…東大寺南大門に置かれた、運慶・快慶らの彫刻。
- ・軍記物…『平家物語』は琵琶法師によって語られ、平氏の繁栄と没落が書かれている。
- ・随筆…『徒然草』は吉田兼好、『方丈記』は鴨長明
- ・和歌集…『新古今和歌集』は藤原定家が編集。

□戦乱の世の中で、分かりやすくて行いやすい教えが生まれました。

▼鎌倉幕府の仕組み



▼中尊寺金色堂

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

▼御成敗式目(貞永式目)

(一部要約)

- 諸国の守護の仕事は、御家人の京都を守る義務を指揮・催促すること、謀叛や殺人などの犯罪人の取りしまりである。(第3条)
- 地頭は荘園の年貢をさしおさえてはいけない。(第5条)
- 20年以上継続してその土地を支配していれば、その者の所有になる。(第8条)

▼鎌倉仏教

- 浄土宗(法然)…ひたすら「南無阿弥陀仏」を唱えれば、だれでも浄土にいける。
- 浄土真宗(親鸞)…罪深い悪人こそ阿弥陀仏が救おうとしている人々である。
- 時宗(一遍)…踊念仏を広める。
- 日蓮宗(日蓮)…「南無妙法蓮華経」を唱えれば人も国も救われる。法華宗ともよばれる
- 臨済宗(栄西)・曹洞宗(道元)…座禅を組み、自ら悟りを開く。

確認問題

●一問一答● 次の問いに答えなさい。

学習1

□(1) 武士の棟梁として、多くの武士団を支配した勢力は、平氏ともう一つは何氏か。(1)

□(2) 平安時代の後半に、岩手県の平泉を中心に栄えた東北地方の豪族は何氏か。中尊寺金色堂に一族の繁栄があらわれている。(2)

□(3) 白河天皇が上皇となったのちも、院とよばれる御所で行った政治を何とよぶか。上皇やその住まいのことを院とよんだ。(3)

□(4) 武士としてはじめて太政大臣となり、貴族にかわって政権を握った人物はだれか。(5、平治の乱で対立勢力を一掃し武家政権を打ち立てた。)(4)

□(5) 上皇と天皇の対立に、藤原氏一族の争いが結びついて起こった乱を何とよぶか。後白河天皇は(4)と源義朝の協力を得て勝利した。(5)

□(6) (4)が中国で行った貿易を何とよぶか。瀬戸内海の航路を整え、兵庫の港(大輪田泊)を整備した。(6)

□(7) 征夷大將軍となり、鎌倉に幕府を開いた人物はだれか。平治の乱ののち、伊豆に流されていた。北条時政の助けを得て挙兵した。(7)

□(8) 国ごとに置かれ、軍事・警察の仕事にあたった役職を何とよぶか。源義経を捕らえる口実で設置された。(8)

□(9) 公領や荘園におかれ、年貢の取り立て、土地の管理、治安の維持にあたった役職を何とよぶか。(9)

□(10) (7)の挙兵後、頼朝と主従関係を結んだ武士を何とよぶか。(10)

学習3

□(11) 將軍は(10)に役職を与え、先祖から引き継いだ領地を公認し、新たな土地を与えたりした。このことを何とよぶか。(11)

□(12) (7)の死後、鎌倉幕府の実権をにぎった北条氏の政治を何とよぶか。北条氏は(7)の妻政子の実家。(12)

□(13) 後鳥羽上皇が、幕府をたおそうとして兵をあげたが、幕府の大軍に敗れ隠岐に流された。この乱を何とよぶか。(13)

□(14) 1232年、北条泰時が裁判の基準を示すための法律をつくった。この法律を何とよぶか。のちに室町幕府や戦国大名による武家法の手本となった。(14)

□(15) 港町に倉庫をかまえ、年貢の輸送、保管のほか、商業にも手を出していた運送業者を何とよぶか。(15)

□(16) 寺社の門前や交通の要地で、毎月決められた日に開かれる市を何とよぶか。四日市、五日市などの地名が現在も残っている。(16)

□(17) 運慶らによってつくられた金剛力士像が安置されている建物を何とよぶか。(17)

□(18) 鎌倉時代に琵琶法師によって広められた軍記物は何か。(18)

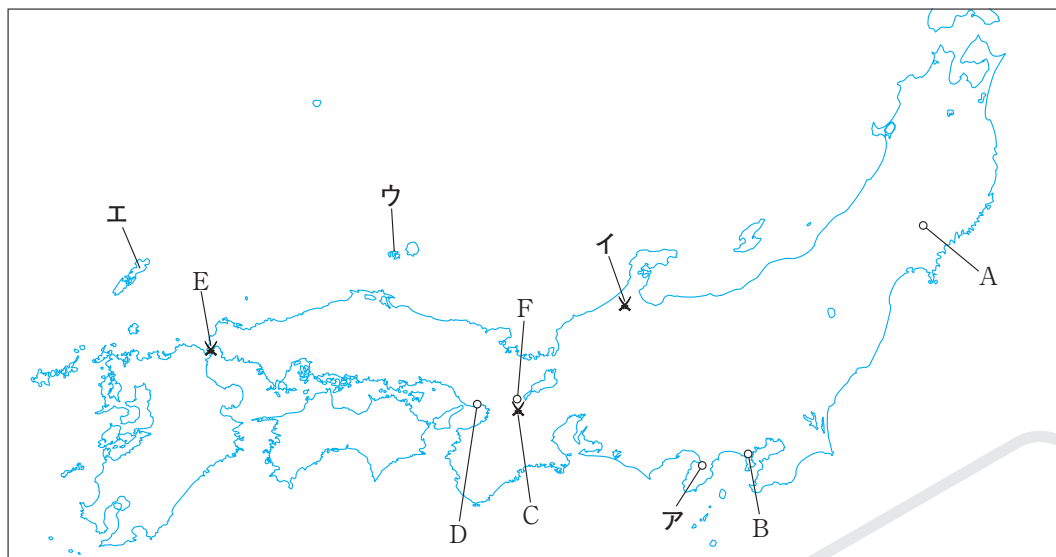
学習4

□(19) 「阿弥陀仏」と念仏を唱えれば救われると、法然が説いた宗教を何とよぶか。(19)

□(20) 「阿弥陀仏を信じて自分の罪を自覚した悪人こそが救われる」と親鸞が説いた仏教の宗派を何とよぶか。(20)

基本問題

1 次の地図を見て、あとの問いに答えなさい。



1

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	①
	②
(7)	①
	②

- (1) Aを拠点にして権力をふるい、中尊寺金色堂を建立した豪族の名を答えなさい。
- (2) 幕府が置かれたBの地名を答えなさい。
- (3) Cの場所で起こった平治の乱で、平清盛に敗れた人物はだれか。次のア～ウから選びなさい。
ア 源義朝 イ 平将門 ウ 後鳥羽上皇
- (4) Dは、平清盛が整備した大輪田泊があった場所である。この港で清盛が貿易を行った中国の王朝名を答えなさい。
- (5) Eは、平氏が滅亡した場所である。この地名を答えなさい。
- (6) Fには、承久の乱後に置かれた幕府の役所がある。次の問いに答えなさい。
 - ① その役所名を書きなさい。
 - ② その役所の仕事を、次のア～ウから選びなさい。
ア 朝廷の監視と西日本の武士の統制
イ 年貢の取り立て
ウ 荷物の運送
- (7) 次の①・②の場所を、地図中のア～エからそれぞれ選びなさい。
 - ① 平治の乱で源頼朝が流された場所
 - ② 承久の乱で後鳥羽上皇が流された場所

2 右の資料を読んで、次の問いに答えなさい。

- (1) 資料の①にあてはまる人物の名を書きなさい。
- (2) 資料の②にあてはまる語句で、将軍と主従関係を結んだ御家人が都の警備につとめ、戦いに命がけであたったことを何というか。
- (3) 資料の言葉を話した(1)の人物の妻はだれか。

さあ侍ども、たしかに聞け。日本国の侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生のだいじと思い、一族・郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときははだしでやっと帰ってきた。それを(①)殿があわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、みな喜んだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方につくか、将軍に(②)するか、今ははっきり言いきってみよ。

2

(1)	
(2)	
(3)	

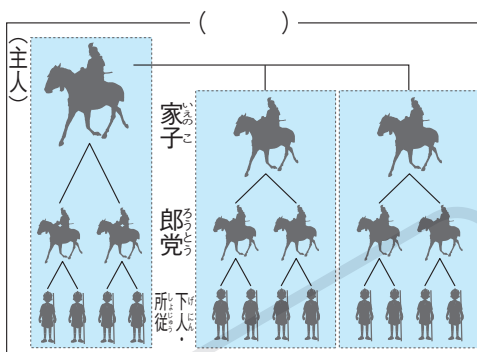
練習問題

1 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

10世紀に入ると、貴族や寺社、地方の豪族は私有地(荘園)を広げていった。11世紀半ば過ぎになると、国司の税の取り立てからのがれるために、藤原氏などの貴族や大寺社に所有者になってもらい、持ち主自らは荘官となって、私有地を支配していった。そして、所有する土地を守るために、① 武芸を身につけ、戦いを職業とする武士が育ってきた。

(1) 下線部①について、次の問いに答えなさい。

- ① 武士は地方で、右の図のような集団をつくっていた。図の()にあてはまる、このような集団を何というか。
- ② 右の図の集団のかしらで天皇や貴族の子孫を何とよぶか。
- ③ 右の図の集団の中で、天皇の子孫といわれるのは源氏と何氏か。

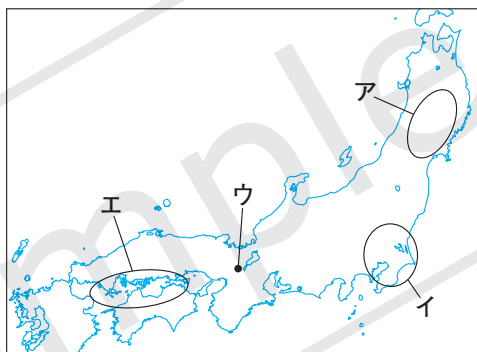


(2) 次のア～ウから平安時代の武士にあてはまるものを選びなさい。

- ア 都の貴族に仕えて、護衛にあたった。
- イ 国司に任命されて地方を治めた。
- ウ 租・調・庸がかけられた。

(3) 次のA、Bの乱が発生した地域を、右の地図のア～エから選びなさい。

- A 平将門の乱
- B 藤原純友の乱



1

	①	
(1)	②	
	③	
(2)		
(3)	A	
	B	

2 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

11世紀中ごろ、藤原氏と血縁関係がうすい後三条天皇が位に就くと、天皇に政治の実権を取りもどそうとした。そして、次の白河天皇は、① 位を皇子にゆずって、(①)となったのちも、政治を行った。

12世紀半ばになると、天皇家や藤原氏の争いなどが起こった。② 保元の乱では(②)や(③)を味方につけた後白河上皇が勝利した。こうしたことから武士は武力で争いを解決し、地位を高めていった。

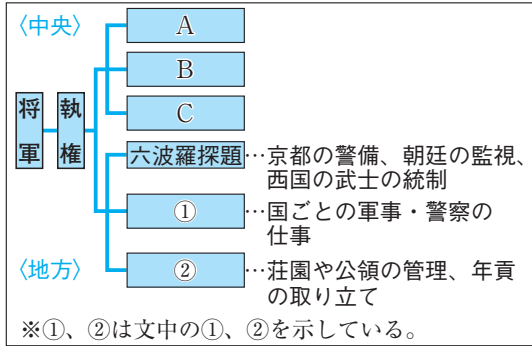
- (1) 文中の①にあてはまる語句は何か。
- (2) 文中の②・③にあてはまる人物を、次のア～エから選びなさい。
ア 平清盛 イ 源義朝 ウ 後三条天皇 エ 持統天皇
- (3) 下線部②の政治を何というか。
- (4) 下線部③の3年後、後白河上皇の政権内で起こった対立を何というか。
- (5) (4)の戦いに勝ち、太政大臣となった人物について、次の問いに答えなさい。
 - X この人物が大輪田泊を整備して行った貿易を何というか。
 - Y **表現力** この人物は、どのような方法で政治の実権を握るようになったか。「娘」と「天皇」という語句を使って説明しなさい。

2

(1)		
	②	
(2)	③	
(3)		
(4)		の乱
	X	貿易
(5)	Y	

③ 次の文を読み、右の図を見て、あとの問いに答えなさい。

源平の内乱の間、鎌倉で指揮をとっていた源頼朝は、武家政治のための実際的で簡素なしくみを整えて朝廷にせまり、(①)・(②)を置くことを認めさせた。その後、頼朝は、征夷大將軍に任じられ、鎌倉に初の武家政権を成立させた。頼朝は、御家人に 新しい領地を 与え、そのかわりに將軍のために働くことを誓わせた。



- (1) 文中と図中の①・②にあてはまる語句を書きなさい。
- (2) 図中のA～Cにあてはまる語句を、次の文をふまえて答えなさい。
 - A 御家人の統率、軍事と警察の仕事をした。
 - B 一般の政務や財政の仕事をした。
 - C 訴訟や裁判の仕事をした。

- (3) **表現力** 下線部①はどのような人々か。簡潔に説明しなさい。
- (4) 下線部②について、奉公に対して、將軍が御家人の先祖伝来の領地の支配を認め、新しい領地を与えることを何というか。

(1)	①	
	②	
(2)	A	
	B	
	C	
(3)		
(4)		

④ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

頼朝の死後、幕府の実権は(①)という地位についた北条氏の手に移った。この後、3代將軍が暗殺され、これを政権奪回の好機とみた^a(②)上皇は、1221年、北条氏を討つ命令を全国に下したが、幕府の大軍の前に敗れた。また、1232年、北条泰時が、武士の社会の慣習に基づいて、御家人に対してつくった裁判の基準を示すための法律は、その後、長く武士の政治のよりどころとなった。

- (1) 文中の①にあてはまる語句を書きなさい。
- (2) 文中の②にあてはまる語句を書きなさい。
- (3) 下線部①のあと、朝廷の監視のために、京都に置かれた役所を、次のア～エから選びなさい。
ア 問注所 イ 六波羅探題 ウ 守護 エ 大宰府

(1)	
(2)	
(3)	

⑤ 鎌倉時代の文化や宗教、生活について、次の問いに答えなさい。

- (1) 右の資料は、鎌倉時代に人々に親しまれた作品の冒頭である。この作品の名を書きなさい。
- (2) 各地をまわって、右の資料の作品を武士や民衆に広めた人のことを何というか。
- (3) 戦乱や天災、貴族の没落などから世のはかなさを書いた随筆『方丈記』の作者の名を書きなさい。
- (4) 藤原定家らが編集した和歌集の名を書きなさい。

祇園精舎の鐘の聲、
諸行無常の響あり。
沙羅双樹の花の色、
盛者必衰のことわりをあらわす。
おごれる人も久しからず、
ただ春の夜の夢のごとし。
たけき者もついにほろびぬ、
ひとえに風の前の塵に同じ。

(1)	
(2)	法師
(3)	
(4)	